

社内研修資料《重要》

Lexy L'Amour

世界初
ナノハイドロキシ
アパタイト
配合

コラーゲンは自力で
ジリキ

男性にもリピーター続出！
お肌の悩みや洗顔・髭剃り後もこれ1本でケア



LEXY L'AMOUR

※国際特許PCT取得 特許番号WO2010-137112



LEXY L'AMOUR

ブランド名は、「愛や大切な想いを、伝える。」の願いを込めています。

「- 伝愛 - デンアイ」を意味する造語です。

関わる人々の美と幸せ・希望を生み出す商品を、

愛を込めてお伝えして参ります。

化粧品を売る会社ではありません。

関わる人々の美と幸せ、希望を生み出す商品を発信します。

長年の発明と実績を基に数百の国際特許を取得し、

美容へと活用した確かなエビデンスが有る、

唯一無二の商品のみを扱います。

世界中にこの想いを実現し続ける

ブランドを目指します。

レクシーラムーア美容液の開発秘話

①美容液へ 世界初 ナノヒドロキシアパタイト配合

(※ヒドロキシアパタイト)

②ナノヒドロキシアパタイトには

線維芽細胞に作用しコラーゲンを産生させる自己免疫再生技術により
【コラーゲン産生促進剤】という明確なエビデンス特許があります。

③医療主に手術（長時間体内留置型手術）の現場にて細菌感染症による悪化を防ぎ命を救う為、
博士による 17 年の研究が重ねられ発明された【自己免疫再生技術】の発明です。
2012 年特許取得済から 9 年間手術の現場で使い続けられている医療実績があります。

④上記の明確なエビデンスと高い医療実績を持つ発明成分を、特殊な手術の現場だけでなく
美容（一般）にも活かして貰いたいという想いが込められています。
永遠の若返りを世に、と博士を含む発明チームが美容液の調合、開発全てに関わっています。
医療の観点からも驚愕的発明のナノヒドロキシアパタイトの力を最大限に引き出す為だけに
調合された美容液が誕生しました。それが【レクシーラムーア】です。

※後半ページに国際特許資料から抜粋した 3 日、7 日の肌写真データ即効性のエビデンスを掲載

※【コラーゲン産生促進剤】の日本特許及び国際特許（PCT）及び諸外国にての特許取得済、
医療的鎮静作用、抗炎症作用等、コラーゲン産生による【豊胸促進剤】、合計数百の特許取得成分。

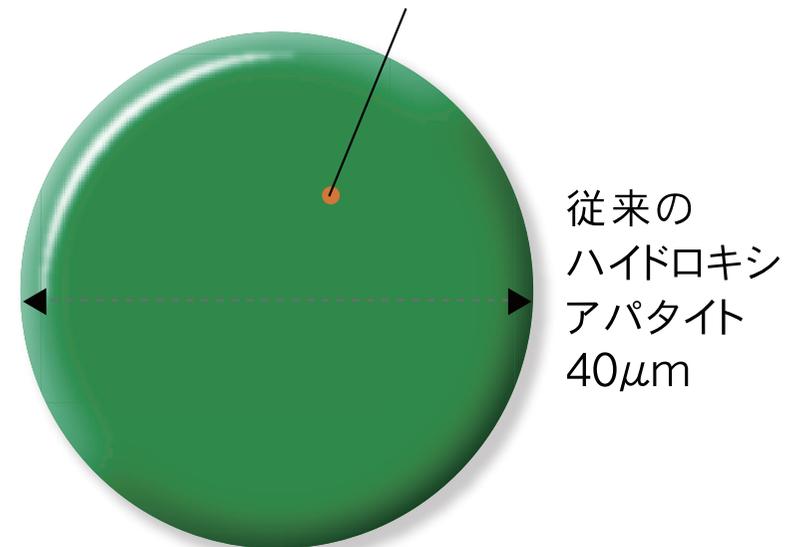
【ナノハイドロキシアパタイトとは】

医療を目的とした長年の研究により誕生！

医療向けに長年研究されてきた自己細胞のコラーゲン産生技術（自己免疫再生技術）をこの度、美容に転換できました。今まで歯や骨のような固い組織にしか応用できなかったハイドロキシアパタイトを超微粒子化することで肌のように柔らかい組織への応用に成功。従来のアパタイトの概念を覆す研究成果でこれは世界的にも画期的な出来事です。

40nm (1/1000)

ナノハイドロキシアパタイト
(ヒドロキシアパタイト)



【使用方法】 … 朝晩の洗顔後、一番最初に2プッシュお顔に馴染ませて下さい。

レクシーラムーア1本のみのご使用でも十分な美肌効果が得られます。

※1本あたり約2ヶ月分（使用量により個人差があります）

配合原料について



1 コラーゲン産生を促す **ナノハイドロキシアパタイト**

2 消炎効果 (ニキビ・アトピー肌の改善) **ナノハイドロキシアパタイト**

3 ブースター効果

グリコール酸 **乳酸桿菌**

美容液やクリームを使用する前に塗布することで有効成分を入りやすくする

4 ブースター効果 2

エトキシジグリコール等

水にも油にも溶ける成分が有効成分を溶かし込んで一緒に皮膚に浸透

5 肌のボリューム増加

ヒアルロン酸

フリーズドライしたヒアルロン酸を配合して即効性

6 肌の内部に成分を浸透

新型ペプチド

標的細胞へのセンサー機能を持つ新型ペプチドで肌の内部に成分を浸透

内容成分

レクシーラムーアは肌に敏感な方にも使用頂けるよう、下記配合しておりません

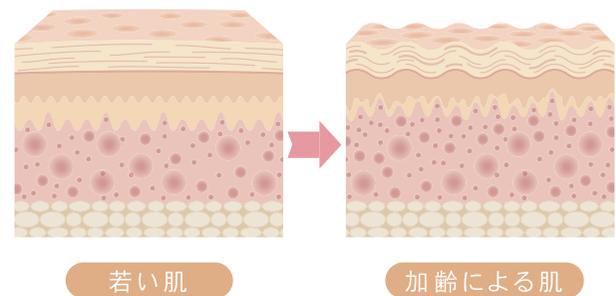
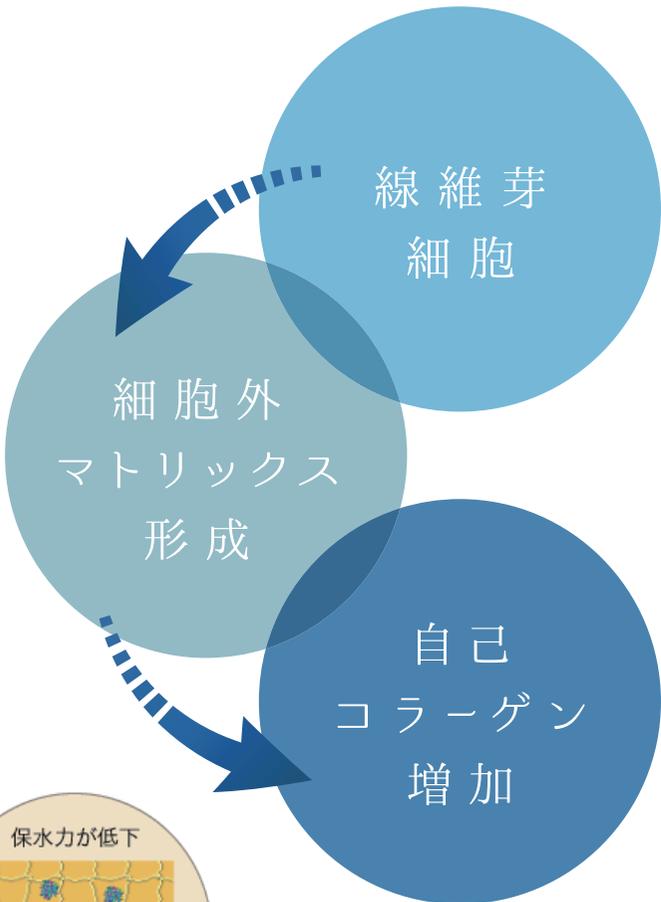
- パラベン
- 石油系界面活性剤
- 合成香料
- アルコール
- 鉱物油
- 紫外線吸収剤
- 法定色素(着料)

ハイドロキシアパタイト

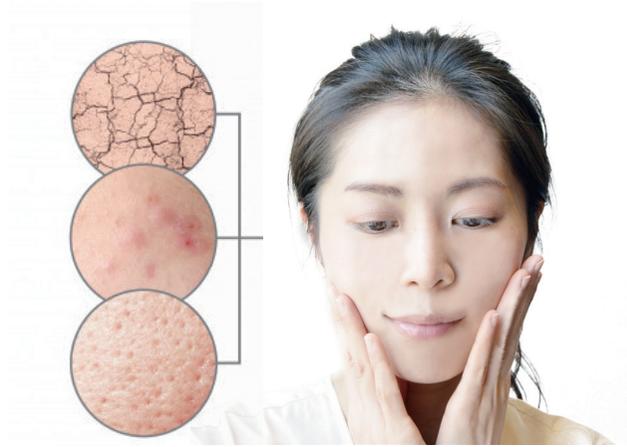
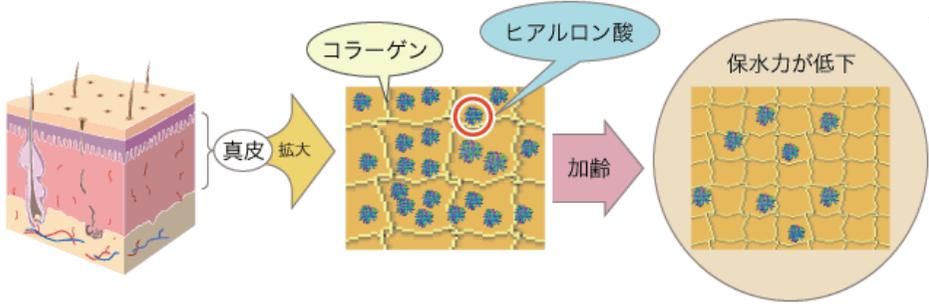
線維芽細胞とは... 線維芽細胞はコラーゲン・エスチヒアルロン酸を産生する大事な細胞
つまり ... ハリのある肌、弾力、潤い作りに欠かせない細胞

細胞外マトリックスとは細胞と細胞をつなぐ有効成分のことでグロースファクター（細胞増殖因子）の集合体です。

細胞外マトリックスの形成が阻害されエラスチン・コラーゲン・ヒアルロン酸の産生能が低下するだけでなく、古いコラーゲンの置換効率も低下



加齢や紫外線による線維芽細胞の減少

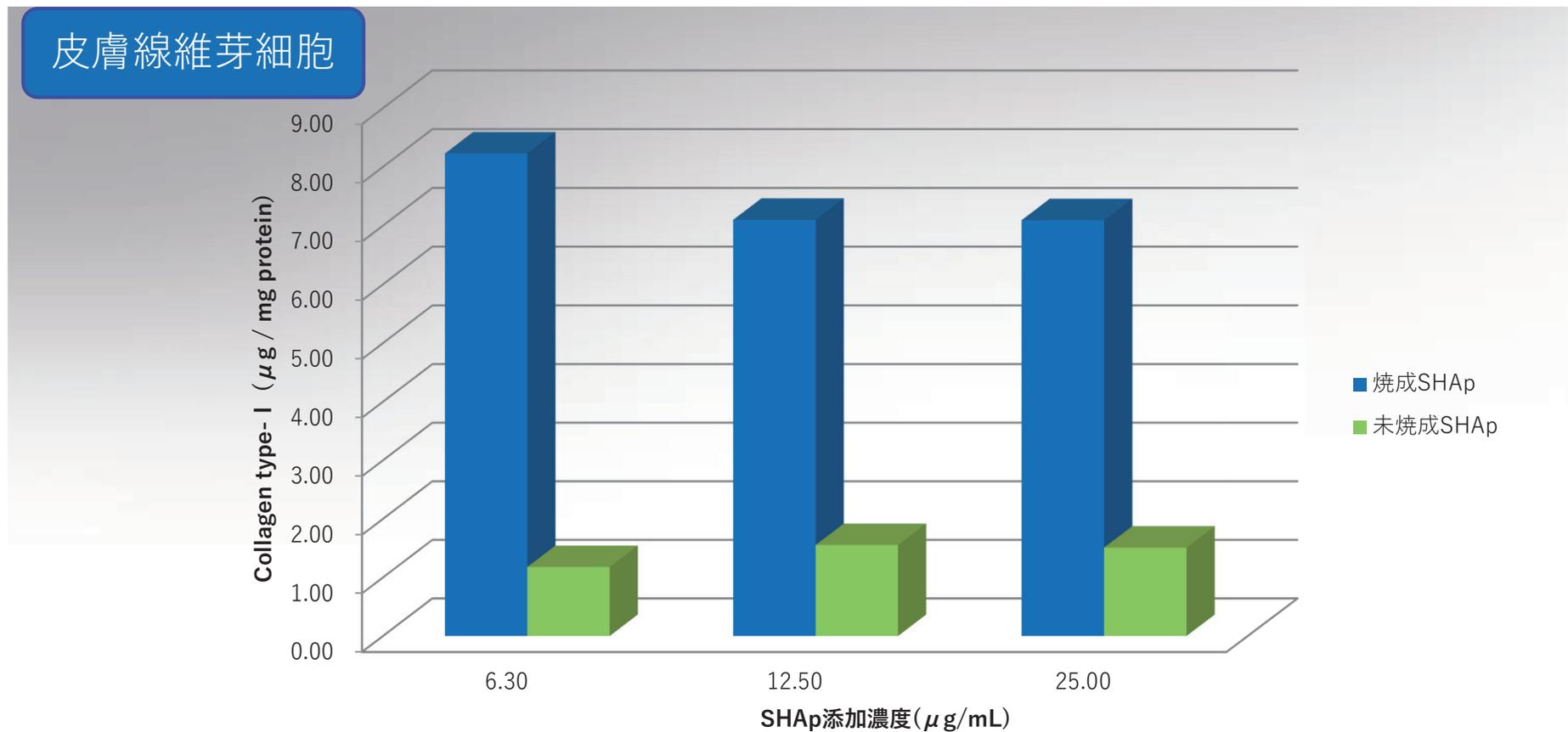


自己コラーゲン減少による肌老化の加速

SHAp（ハイドロキシアパタイト）によるコラーゲン産生促進

焼成 SHAp vs 未焼成 SHAp

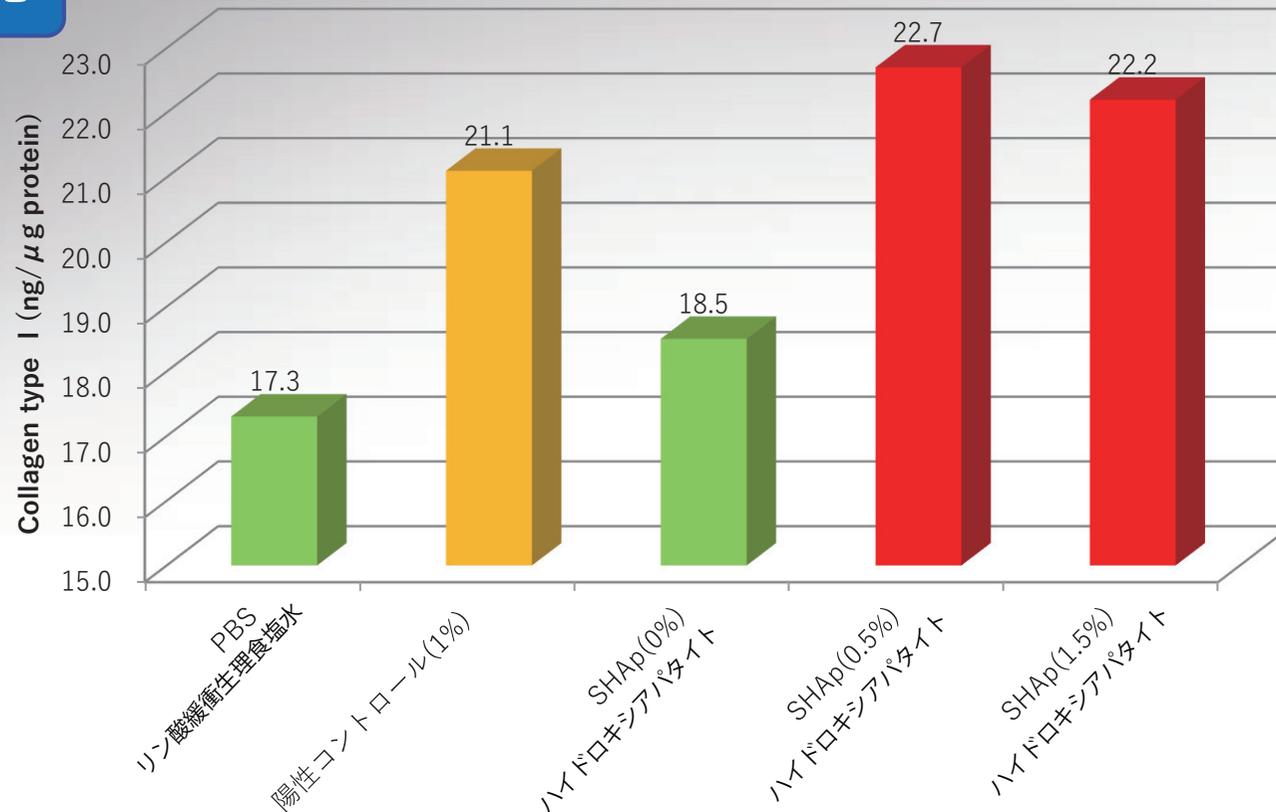
焼成 SHAp 添加で皮膚線維芽細胞のⅠ型コラーゲン産生が有意に増加



SHAp（ハイドロキシアパタイト）によるコラーゲン産生促進

- 経皮吸収 + I 型コラーゲン産生
- 角層に適用した SHAp（球状 /40nm /40nm）は表皮を透過し、線維芽細胞を促進 I 型コラーゲンを生成

皮膚線維芽細胞



SHAp（ナノヒドロキシアパタイト）の安全性

「ナノヒドロキシアパタイト」の日本における安全性試験の結果
 （※ヒドロキシアパタイト）

	試験	実施済み試験 ^{*1)}	結果
化粧品における新規原料配合時に必要とされる試験(日本)	1.急性毒性試験	○	異常なし
	2.皮膚一次刺激性試験	—	
	3.連続皮膚刺激性試験	—	
	4.感作性試験	○	感作性なし
	5.光毒性試験	—	
	6.光感作性試験	—	
	7.眼刺激性試験	—	
	8.変異原性試験	○	陰性
	9.ヒトパッチ試験	—	
	細胞毒性試験 ^{*2)}	○	無または非常に弱い
	皮内反応試験 ^{*2)}	○	刺激性なし、または無視できる

*1) 2007年7月 ナノヒドロキシアパタイトナノ粒子の生物学的安全性試験として日本食品分析センターに依頼。

※日本食品分析センターは化粧品・医薬部外品の衛生試験を実施しております

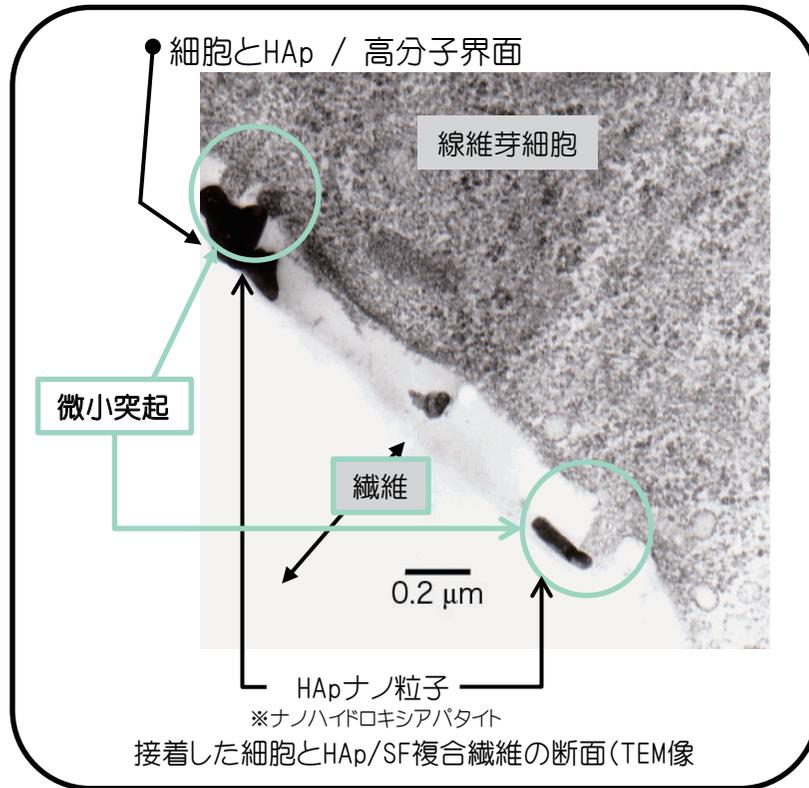
試験はすべて、平成15年医薬審発第0213001号および、平成15年医療機器審査No.36並びに「新規化学物質等に係る試験の方法について」(平成15年11月21日薬食発第1121002号、平成15・11・13製局第2号、環保企発第031121002号)に準拠した試験を実施した。

*2) 化粧品の安全性試験には必要とされないが、*1)の際に実施

線維芽細胞への作用

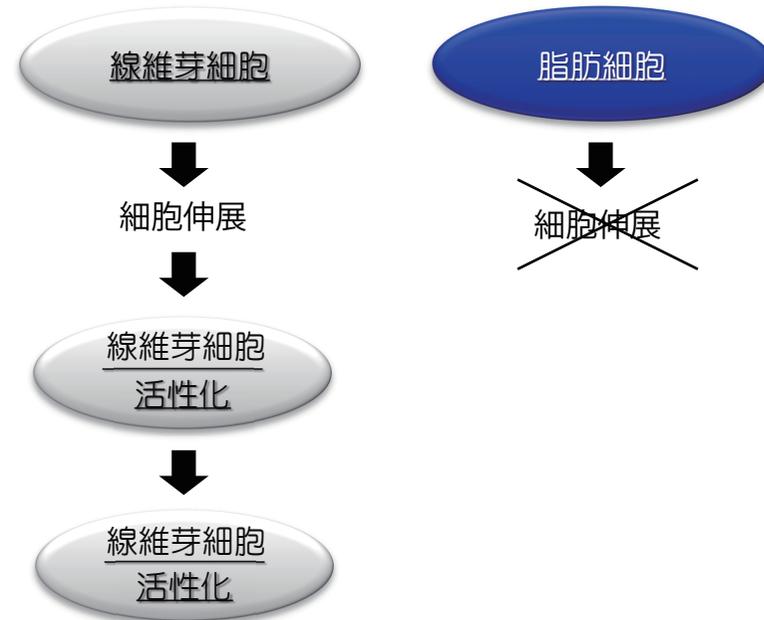
効果的な線維芽細胞の伸展 (医療デバイス例)

(実際に線維芽細胞が活性化している写真)

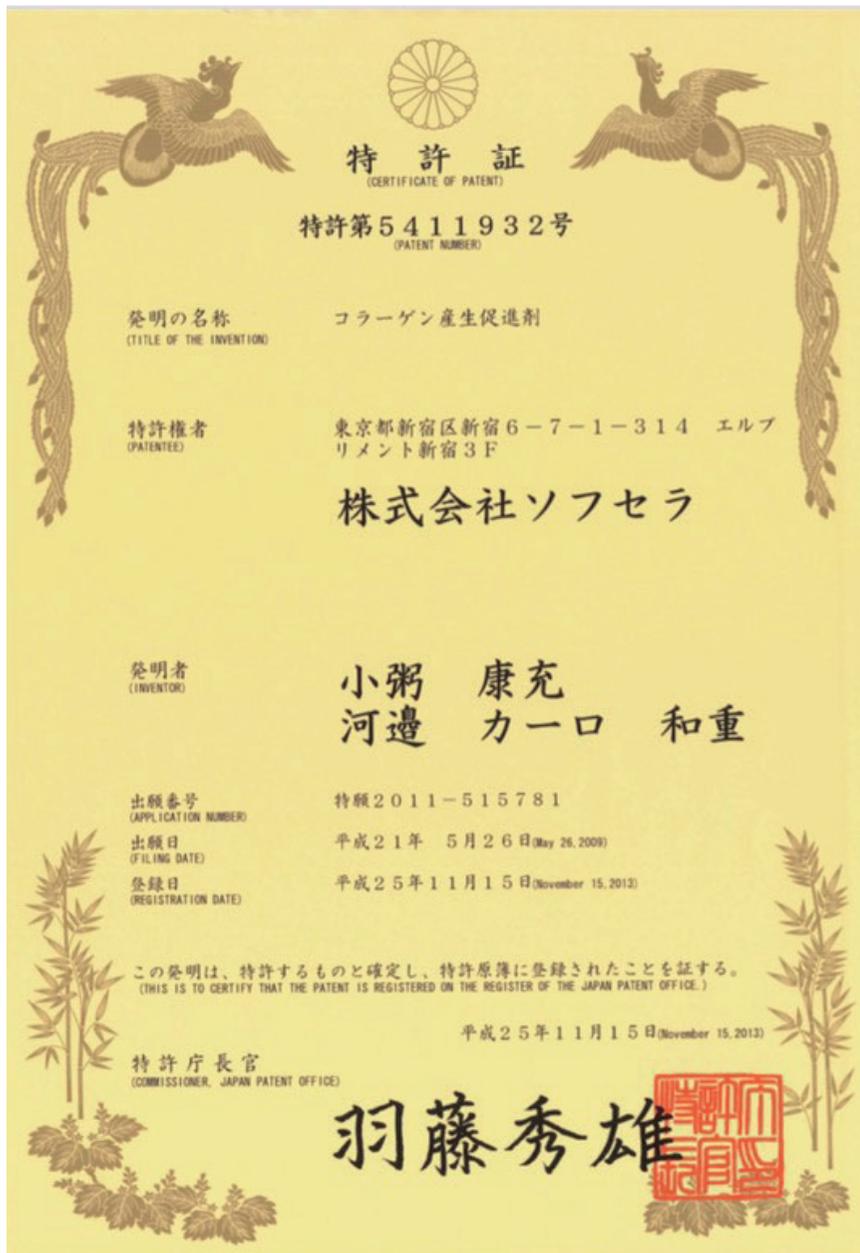


【線維芽細胞】

- 皮膚の機能を保つ上で最も重要な細胞
- コラーゲン、エラスチン、ヒアルロン酸などを作り出す
- コラーゲンを束ねて真皮の構造を作る



国内特許及び国際特許 PCT 取得「コラーゲン産生促進剤」



JP W02010/137122 A1 2010.12.2

(19) 日本国特許庁 (JP) **再公表特許(A1)** (11) 国際公開番号
W02010/137122
 発行日 平成24年11月12日 (2012.11.12) (43) 国際公開日 **平成22年12月2日 (2010.12.2)**

(51) Int. Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 1 K 33/42 (2006.01) A 6 1 K 33/42 4 C 0 7 6
A 6 1 K 9/14 (2006.01) A 6 1 K 9/14 4 C 0 8 6
A 6 1 K 47/10 (2006.01) A 6 1 K 47/10
A 6 1 K 47/36 (2006.01) A 6 1 K 47/36
A 6 1 K 47/18 (2006.01) A 6 1 K 47/18
 審査請求 有 予備審査請求 未請求 (全 23 頁) 最終頁に続く

出願番号 特願2011-515781 (P2011-515781) (71) 出願人 509090601
 (21) 国際出願番号 PCT/JP2009/059631 株式会社ソフセラ
 (22) 国際出願日 平成21年5月26日 (2009.5.26) 東京都新宿区新宿6-7-1-314 エ
 (81) 指定国 AP (B, G, H, K, E, L, S, M, N, A, S, D, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, T, J, T, M), EP (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, SE, SI, S, K, TR), OA (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, K, E, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, NZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RD, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TJ, TM, T, N, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW) (74) 代理人 100105315
 弁理士 伊藤 暹
 小粥 康充
 (72) 発明者 小粥 康充
 日本国東京都新宿区新宿6-7-1-314
 エルプリメント新宿3F 株式会社ソ
 フセラ内
 (72) 発明者 河邊 カール 和重
 日本国東京都新宿区新宿6-7-1-314
 エルプリメント新宿3F 株式会社ソ
 フセラ内
 最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コラーゲン産生促進剤

(57) 【要約】

【課題】 皮膚組織に含まれるコラーゲン量を増加させる新規コラーゲン産生促進剤の提供。

【解決手段】 リン酸カルシウム微粒子を有効成分とすることを特徴とする、コラーゲン産生促進剤。

【選択図】 図 1

国際特許 PCT 取得「コラーゲン産生促進剤」 (特許資料原文より抜粋)

課題

皮膚組織に含まれるコラーゲン量を増加させる新規コラーゲン産生促進剤の提供。

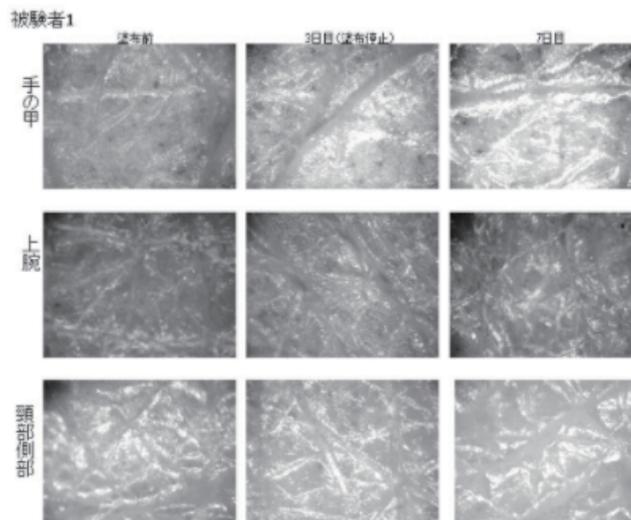
解決手段

リン酸カルシウム微粒子を有効成分とすることを特徴とする、コラーゲン産生促進剤。

背景

コラーゲンは全身のあらゆる臓器に存在しており、特に皮膚においては、真皮乾燥重量の約70%がコラーゲンであることが知られており、皮膚の収縮性、柔軟性、保湿性等の機能保持に役立つだけでなく、各種細胞の形態を正常に維持し、代謝及び接着などに対しても影響を及ぼすことが知られている。

また、皮膚は常に外界にさらされており、加齢とともに弾力や張りを失い、シワ、タルミ等の老化現象が生じる。これらの現象は、皮膚中に存在するコラーゲンの量が老化にともない減少していくことから、発生すると考えられている。このようなシワやタルミをなくすために、コラーゲン産生促進作用を有する物質を用いたコラーゲン産生促進剤が多数報告されている(特許文献1)。従来、真皮中に存在する線維芽細胞がコラーゲンを産生することが知られており、当該促進剤は線維芽細胞に対してコラーゲン産生を促進するように作用するとされている。



概要

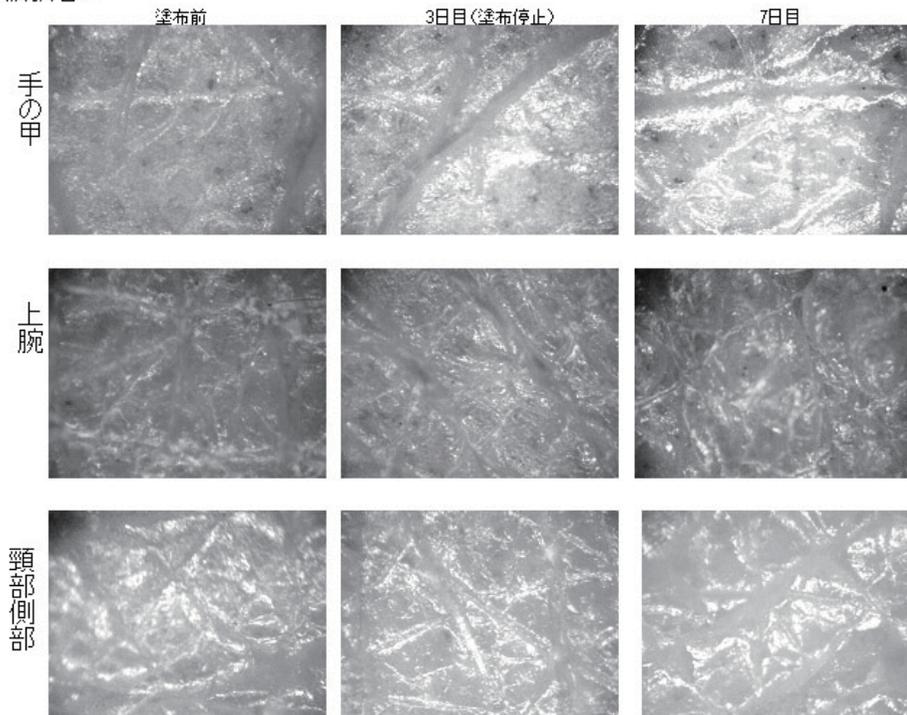
皮膚組織に含まれるコラーゲン量を増加させる新規コラーゲン産生促進剤の提供。リン酸カルシウム微粒子を有効成分とすることを特徴とする、コラーゲン産生促進剤。

目的

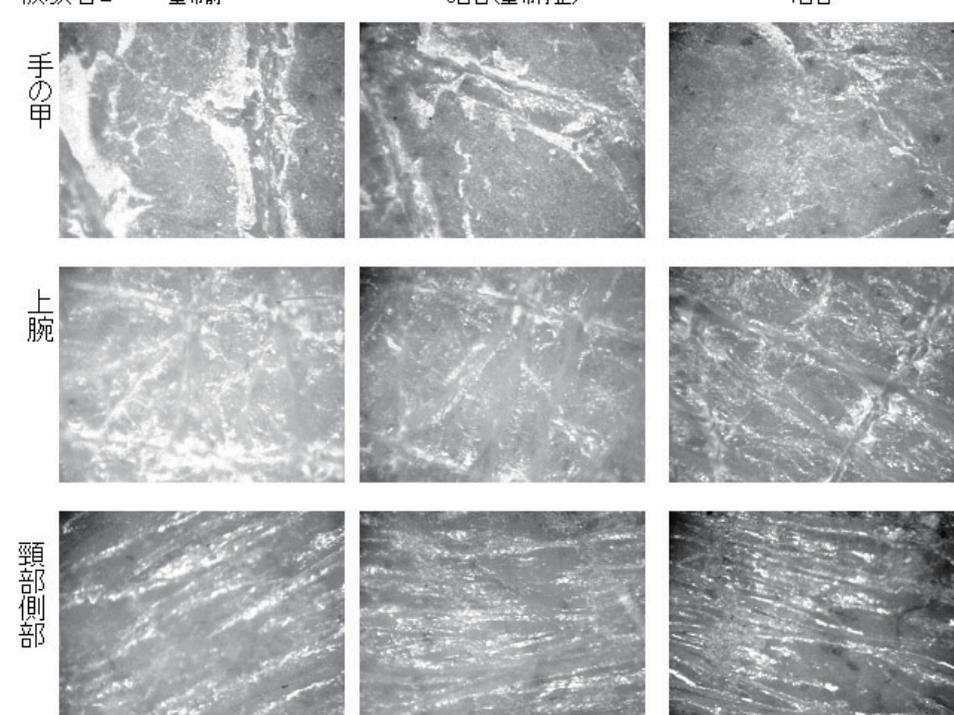
本発明は、皮膚組織に含まれるコラーゲン量を増加させる新規コラーゲン産生促進剤を提供する

【以下は被験者 1.2 の肌の表面の様子を示した図である】 3日、7日の肌写真データ即効性が確認

被験者1



被験者2



発明の効果

0012

本発明（1）は、線維芽細胞に作用して、コラーゲン産生を促進するという効果を奏する。更に、シワやタルミなどの老化現象を改善することや、組織中により損なわれたコラーゲン線維を再構築し、正常な組織へ改善するという効果を奏する。

0013

本発明（2）によれば、線維芽細胞に作用して、コラーゲン産生を促進するという効果を奏する。

0014

本発明（3）によれば、リン酸カルシウム微粒子の平均粒子径が、非常に小さいため、肌の表面に塗布することにより、キメの状態を良くするという効果を奏する。

0015

本発明（4）によれば、焼結体とすることにより、顕著なコラーゲン産生量の増加作用が認められるという効果を奏する。

0016

本発明（5）によれば、リン酸カルシウム微粒子が焼結によっても粒子同士が融着しにくく一次粒子の状態を保っているため、粒径が小さいままで、焼結体を得ることができるため、より高いコラーゲン産生促進作用を発揮できるという効果を奏する。

0017

本発明（6）によれば、これらの物質を含むことにより、真皮への速やかな浸透の促進、収れん、保湿、抗炎症等の効果を奏する。